赤い羽根共同募金
歳末たすけあい募金
善意の総額4,868,222円

昭和五十四年度「赤い羽根共同募金」と「歳末たすけあい募金」の実績が、このほどまとまりました。

募金額は、どちらも目標額を上回り、昨年比で、約五十三万円の増となりました。

赤い羽根共同募金では、葛塚中学校から十万六千九百九十三円、青い鳥保育園から一万五千三百八十九円、市農協連絡協議会から三万五千円の善意など、戸別、法人、職域学校、その他から合計九千六百七十件、約三百十三万四千円が、県共同募金会へ送られ県下の各施設や思まれない人たちに贈られました。

歳末たすけあい募金では、㈱シバタ文化興業から十万円豊栄ライオンズクラブから五万三千五百円など、合計八千七百三十一件、約百七十三万五千円が、市内の思まれない人たちに配分されました。

赤い羽根共同募金

目標額	三、〇六六、〇〇〇円	精薄者授護施設	一四人
募金額	三、一三三、六七〇円	〃	二八、〇〇〇円
募金件数	九、六七〇件	母（父）子世帯	四人
歳末たすけあい募金		〃	七二世帯
目標額	一、三〇〇、〇〇〇円	養護施設	一四四、〇〇〇円
募金額	一、七三四、五五二円	〃	二〇、五〇〇円
募金件数	八、七三一件	肢体不自由児施設	二人
主な配分内訳		〃	四、〇〇〇円
精薄児施設	六人	重症心身障害児施設	一人
〃	二二、〇〇〇円	〃	二、〇〇〇円
身体障害者授護施設	一人	身体障害者療護施設	一人
〃	二、〇〇〇円	〃	二、〇〇〇円
身体障害者更生施設	三人	〃	三四、〇〇〇円
〃	六、〇〇〇円	救護施設	六人
〃	一二、〇〇〇円	〃	一五人
その他の児童施設	三〇、〇〇〇円	〃	四人
盲、ろう学校	八、〇〇〇円	長期入院患者	
（一般）			一〇三人
	二〇六、〇〇〇円		一一六人
（精神）	一七四、〇〇〇円		一七人
老人福祉施設	三四、〇〇〇円	在宅心身障害者	八四人
〃	一六八、〇〇〇円		一四三人
在宅老人	二五〇、五〇〇円	交通遺児遺族	一七人
〃	二三、〇〇〇円	母（父）子世帯	七二世帯
〃	一四四、〇〇〇円	生活保護世帯	一五一世帯
〃	三〇二、〇〇〇円		

笹山小学校
基本設計決まる

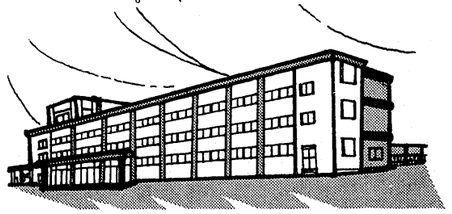
市では、老朽化した笹山小学校（南木茂校長 児童数百六十三）の一部を取り壊し、新校舎を建設する施備を進めてきましたが、その基本設計がまとまりました。

新校舎は、鉄筋コンクリート三階建てで、五十五年度中に完成し、給食施設を含んだ総事業費は二億二千万円ほどが見込まれています。

新校舎は、一階面積六百四十四平方㍍、延べ面積一千五百四十五平方㍍で、一階は職員室、放送室、給食室などが設けられ、二階と三階には普通教室が三室ずつ設けられます。

新校舎は、現在の正面校舎を取り壊して、その跡地に建設されますが、新校舎完成までの間は、二階建てのプレハブ教室（六室）を業者から借用して使用します。

なお、取り壊す校舎は、明治四十五年と昭和二十六年に建設したものです。



下の図は、笹山小の完成予想図

戦争の記録を募集しています

市では、戦争の体験文を募集しています。これは、終戦三十五周年、新町建設二十五周年、市制施行十周年を記念して、文集「戦争の記録」㈡を編集、発行するためです。

文の技巧などにこだわらずあなたも応募してください。

応募の概要は、次のとおりです。

▽原稿は、明治以降の戦争の記録とし、体験文、短歌、俳句、詩とし、故人の遺稿も含みます。

▽四百字詰めの原稿用紙を使用してください。体験文は、おおむね十枚以内とします。短歌と俳句は、十首または十句以内とします。詩は一編おおむね三十行以内とし、二編までです。

▽応募締め切りは、四月三十日で、提出先は市の企画広報課（電話七一三四〇一）です。

▽頒布は予約制とし、実費をいただきます。

▽発行期日は、八月の予定です。

戦争体験の例

○軍隊、戦場での体験 ○軍隊へ家族を送った家庭の体験 ○戦没者家族の体験 ○学徒動員の体験 ○徴用の体験 ○開拓団の体験 ○空襲、戦災の体験 ○学校、職場での体験 ○農家や商店の体験 ○疎開生活の体験 ○抑留生活の体験 ○海外から引き揚げの体験 ○戦中戦後の食糧難等耐乏生活の体験

くわしいことは、企画広報課へおたずねください。

長浦村との合併調印式（昭和34年7月）
（三林豊栄町長(右)と石山長浦村長(左)）
昭和30年3月葛塚、木崎、岡方の3町村が合併して豊栄町発足、昭和34年長浦村が合併、現在の豊栄市の姿となりました。

新町建設25周年・市制施行10周年
多彩な記念行事を計画

今年は、新町建設二十五周年、市制施行十周年の年に当たります。市は、このことを記念して、十一月一日の新町建設と市制施行の記念式典を中心にして、多彩な記念事業を計画しています。

合併によって豊栄町が誕生したのが昭和三十年三月三十一日、市制を施行したのが四十五年十一月一日でした。

記念行事は、新町建設二十五周年、市制施行十周年の年に当たります。市は、このことを記念して、十一月一日の新町建設と市制施行の記念式典を中心にして、多彩な記念事業を計画しています。

文化講演会など一部は決定

○ **記念式典**
十一月一日に実施します。

○ **記念誌の編集**
写真を中心にして豊栄の現在と過去を比較して、私たちの“まち”づくりが、どのようにして行われてきたか、また私たちの生活がどのように変わったかを探り、郷土の将来を考える資料にします。これは全戸に配布します。また戦争が終わって三十五周年にも当たるので、文集“戦争の記録”を編集します。

○ **文化講演会**
東北電力の協力によって、中央の知名人による文化講演会を開催します。開催日は十月二十六日か十一月九日が予定されています。

○ **文化祭行事**
文化関係団体、産業関係団体の協力により、意義ある文化祭を計画します。

○ **体育行事**
体育協会等の協力によってこれまでの体育行事を充実させ、優勝カップ等は新しくします。

市制施行記念ロードレース大会

○ **テレビ公開放送**
民間放送TBSの人気番組“家族そろって歌合戦”の公開放送を市内で開催することが、ほぼ決定しました。十一月ごろに開催される見込みです。このほかの放送局にも市の姿を紹介する番組等を依頼する予定です。

○ **市民音楽祭**
小中学生から一般市民まで参加できる音楽祭を開催し、今後は毎年開催しようという計画です。

○ **豊栄市都市憲章の制定**
秩序ある都市づくり、市民の幸せのための社会づくり、そのため、豊栄市の指標とするところなどを憲章として定めておこうというものです。

○ **博物館の整備**
建設中の博物館を記念事業の一つとして整備するものです。

○ **記念論文**
豊栄市の将来像等についての記念論文の公募を計画しています。

○ **福島潟野鳥観測塔**
野鳥の宝庫福島潟に野鳥観測塔を建設する案が出ています。二十㍍ほどの鉄塔の上に双眼鏡などを備えた観測室を設け、野鳥に親しんでもらおうというものです。これが実現できれば、日本最初の施設になります。

市名「豊栄」の由来
昔、新発田市や豊栄市一帯を豊田荘と呼び、東大寺領に属したことがありました。昭和三十年、葛塚、木崎、岡方の三町村が合併するとき、豊田の豊をとり、更に栄えることに願いをこめて、豊栄町と名付けました。

加できるように配慮し、市民が総参加できるように計画します。

各種の記念事業については各団体や機関の代表による実行委員会で計画しますが、現在、市役所内で計画中のもの、または決定した事業に、次のようなものがあります。